

「北方圏」地理的範囲の一考察

菊地 達夫（北海道浅井学園大学短期大学部・北方圏生活福祉研究所）

抄 録

本研究は、北方圏の地理的範囲について、地域イメージのアンケート調査結果と北海道に生起する地理的事象を手がかりとした他地域比較を通じて、若干の考察をしようとするものである。

その結果、地理的範囲として、ロシア、モンゴル、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、デンマーク、アイスランド、カナダに加え、アラスカ、アメリカ合衆国北部、中華人民共和国北東部、北海道、東北が考えられた。

キーワード：北方圏，地理的範囲，地理的比較，北海道

I. はじめに

近年、多種多様な機会で「地域」という文字が目につくようになってきた。地域は、都市内部の小地域、国を超えた広範囲な地域などがあるが、国や行政区分の単位を指すことが多い。地理的な地域区分は、文化、宗教、民族などの人文的事象、植生、気候といった自然的事象によって行う。人文的や自然的事象によって区分した地理的範囲は、何らかの類似性をもつと解釈される。しかし、その境界は、線を引いたような完全な区分とは成りがたい。国や行政区分の場合、人文的や自然的事象の地域区分と比べ、あくまで形式的な場合が多い。世界各地では、イラク、イスラエルをはじめ民族、宗教、文化などの違いを起因とする紛争や戦争が絶えないが、形式的な国境や行政区界といった地域区分が大きく影響している。

地理学では、人間活動と諸環境の相互作用について、環境決定論、環境可能論、環境認知論、人間論をめぐって地理的範囲の区分を検討してきた。諸環境には自然環境、社会・経済環境、歴史・文化環境などがあり、場所の変化で景観や人間生活に地域的差異が生まれる。また、同じ地域であっても、時代が変われば時代的差異も起こる。このような地理的範囲の区分は、等質地域、機能地域、認知地域などに分類される。

地理的範囲に関する研究として、地名考察についての成果がみられる。例えば、朝倉（1992）は、「東海」の地域的範囲の考察をした。また、地誌学や地域研究では、地理的範囲の基準に関する議論も高まっている。とりわけ、地域研究では、「世界単位」という地理的範囲の区分が注目を集めている。高谷（1997）は、「世界単位」を現在の国家に代わる新しい地域単位と指摘する。地域

は、生態史的手法で、森といった生態適応型の世界単位、砂漠、草原、海といったネットワーク型の世界単位、野といった大文明型の世界単位の3つに分けた。ただし、基準の不統一、重層する帰属意識、境界の重複といった点について批判的な見解がある。

本稿は、道内外の広範囲を含むと考えられる「北方圏」の地理的範囲について、北海道に生起する地理的事象を他地域と比較しながら若干の考察をしていきたい。具体的には、自然的事象をはじめ、いくつかの地理的比較を行い、北方圏の地域イメージのアンケート調査結果を加え検討する。

「北方圏」の呼称は、主として北海道における行政機関や大学研究所の名称に使用されている。例えば、社団法人北方圏センターは、「北方圏」の地理的範囲を北海道と気候、風土が類似する地域とする。また、北海道東海大学北欧・北方圏研究コースでは、北欧、北米、ロシア、アジア北部などを含む「寒冷な北の地域」の総称として定義する。とりわけ、北欧は、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、デンマーク、アイスランドの5カ国を指す。これらの地理的範囲は、北海道のような行政単位と国家単位を混在する形で示し、極めて曖昧な抽象的用語として使われている。その結果、北米はカナダとアメリカ合衆国となり、南部のフロリダ付近までも地理的範囲に含めてしまう。

ところで「北方圏」の「圏」のような用語は、ほかに「ネットワーク」や「双系制」や「ゆるやかな構造」などがある。とりわけ、「圏」と「ネットワーク」は、人間と人間、あるいは集団と集団の関係について、双方の特質を表現するといった共通性をもつ。他方、「圏」は一般的に中心と周辺関係を意識し、「ネットワーク」はつながり自体を重要とするといった違いをもつ。

なお、本稿では、比較対象とする地理的範囲を、資料の制約上、国家または行政区を単位とする。

Ⅱ. 「北方圏」の地域イメージ

本章では、「地理学」受講の学生に対して実施したアンケート調査結果をもとに「北方圏」の地理的範囲の地域イメージをつかみたい。アンケート調査は、日本を含む北半球と日本全域に分けて回答を求めた。北半球の場合、アジア、ヨーロッパ、北米で地域区分し、日本より高緯度またはほぼ同緯度の国や地域を抽出し、自由選択させた。日本全域の場合、日本を含むと回答した者のみに、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄を選択させ、より細かな地域イメージに迫った。

なお、選択肢の国名や地域名は、地図上に示しておらず、回答者が地理的位置を正しく認識しているとは限らない。しかしながら、旧ソ連崩壊後に誕生した分裂国家では、できる限り旧ソ連の補足語を入れ、配慮を加えた。よって、概ねの地域イメージには、支障はないものと考えた。

1. 北半球での北方圏の地域イメージ

ここでは、3つの地域の選択結果から順に確認したい。有効回答数は、110人であった。まず、アジアおよび周辺地域では、ロシア103人、日本60人、モンゴル55人、北朝鮮48人、中華人民共和国47人と続く。ロシアの北方圏のイメージが著しく高い。日本やモンゴルは、半数以上の選択があり、それ以下の国も拮抗している。

次のヨーロッパでは、スウェーデン96人、ノルウェー90人、フィンランド88人、アイスランド80人、デンマーク70人、イギリス62人と続く。最も少ない国はベルギー19人で、国数が多いこともあり、散らばった。上位の国は、いわゆる北欧諸国と呼ばれる地域である。また、選択肢以外の国を挙げた回答者がおり、地理的範囲は一層広がった。イタリア、スペイン、ポルトガル、フランスは、南欧諸国に属するが、北海道と同緯度に位置するため、興味深い。

最後に北米は、アラスカ（アメリカ合衆国）、カナダがともに90人で独占し、アメリカ本土を含むと回答した者（25人）は少ない。

アジアおよび周辺地域の場合、近年の分裂独立国家は、地理的位置が分からず判断できなかつた結果、数が低迷したものと受け取れる。カザフスタンの場合、モンゴルとほぼ同緯度にあるが、回答者数では下回った。

ヨーロッパや北米の場合、概ね地域内の北部に位置する国や地域が上位を占めた。日本と比較すると、いずれも高緯度に位置する。

アジアでは日本国内を、ヨーロッパと北米では地域全域を基準として、北方の位置する地域をイメージしたものと考えられる。

回答者の半数以上得た国や地域は、ロシア、日本、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、デンマーク、アイスランド、イギリス、アラスカ（アメリカ合衆国）、カナダとなる。これらの国や地域を北方圏の地理的範囲として地域イメージしたものと同判断できよう。

第1表 北方圏の地域イメージ（北半球）

| 国名・地域名 | 人数 |
|---------------|-----|
| ロシア | 103 |
| 中華人民共和国 | 47 |
| 朝鮮民主主義人民共和国 | 48 |
| モンゴル | 55 |
| 大韓民国 | 41 |
| 日本 | 60 |
| カザフスタン | 42 |
| キルギス | 35 |
| ウズベキスタン | 40 |
| スウェーデン | 96 |
| ノルウェー | 90 |
| フィンランド | 88 |
| デンマーク | 70 |
| アイスランド | 80 |
| イギリス | 62 |
| ドイツ | 37 |
| ポーランド | 37 |
| エストニア | 37 |
| ラトビア | 33 |
| リトアニア | 32 |
| ベラルーシ | 26 |
| オランダ | 22 |
| アイルランド | 30 |
| ベルギー | 19 |
| アラスカ（アメリカ合衆国） | 90 |
| カナダ | 90 |
| アメリカ合衆国本土 | 25 |

資料) アンケート調査。

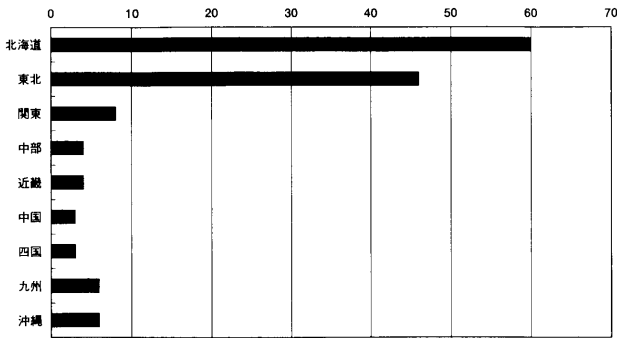
注) 複数回答。有効回答数110

2. 日本国内での北方圏の地域イメージ

前節で日本を北方圏の地理的範囲に含むという回答者が多かった。しかしながら、日本は、北海道から沖縄にかけて南北に連なる国土を有し、気候帯も多様性をもつ。

そこで、地方レベル（北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州・沖縄）の選択を行った。その結

果、北海道60人、東北46人、関東8人、九州と沖縄が6人と続く。



第1図 北方圏の地域イメージ (日本)

資料) アンケート調査。

注) 複数回答。有効回答数60

北海道は有効回答数の全員が選択し、東北もかなりの数に上った。他方、長野オリンピックの開催地を含む中部は、わずか4人に留まった。これは、長野を中部に含むと判断できなかったとも考えられ、検討の余地が残る。全体の1割に過ぎないが、九州と沖縄を含むと回答したものがいた。これらの回答者は、九州と沖縄に加え、北海道も回答しており、周辺地域あるいは辺境地域といった意味合いを強く意識したのかもしれない。

以上から、日本国内では北海道と東北を北方圏の地理的範囲に含むと考えている。また、回答者は北海道の居住者であり、それ以南の東北までを地理的範囲に含むとした結果は、興味深い。

Ⅲ. 自然的事象の地理的比較

1. 類似緯度地域の平均気温

まず、札幌とほぼ同緯度に位置する世界各地の平均気

温を比較してみたい。比較対象地は、マドリード (スペイン Madrid)、ローマ (イタリア Roma)、ベオグラード (セルビアモンテネグロ Beograd)、タシケント (ウズベキスタン Tashkent)、ウルチム (中国)、シェンエン (中国)、ウラジオストック (ロシア Vladivostok)、モントリオール (カナダ Montreal)、ボストン (アメリカ Boston) の9都市8カ国を取り上げた。平均気温は、冬(1月)と夏(8月)を比較した。

冬の場合、最寒地は、ウラジオストックのマイナス12.6度で、ウルチムがマイナス12.4度で続く。他方、ヨーロッパのマドリード、ローマは、地中海性気候帯に属し、冬でもプラスを示す。内陸部に位置するベオグラード、タシケント、モントリオールは、周辺の沿岸地と比べやや寒い。札幌は、マイナス4.1度で比較対象地の平均値にちかい。一般的に気温は低いものの、高低差は大きい。また、日本海を挟み、ほぼ対岸に位置する札幌とウラジオストックの気温差はマイナス8度にもなる。同緯度で地理的位置が近接であることを考えると、その差異は大きい。ウラジオストック沿岸は、シベリア大陸からの寒冷な季節風に加え、樺太付近から寒流が南下する。それに対して、札幌は、季節風の影響はあるものの、日本海沿岸を暖流が北上することにより、寒さが緩和するものと考えられる。

夏の場合、タシケントの25.7度が最高で、マドリードの24.2度、ローマの24度と続く。また、最低はモントリオールとウラジオストックの19.6度となる。札幌は22度で、冬同様に比較対象地の平均値にちかい。一般的に気温は高いものの、高低差は小さい。

札幌は、夏冬においてほぼ平均値を示すことから、厳しい寒冷地とは一概に言えない。

2. 国内降雪量

次に、日本各地の積雪量について既存データを用い地

第2表 各都市の平均気温(夏冬)の比較

| 緯度 | 都市名 | 国名 | 冬(1月) | 夏(8月) |
|-------|----------|------------|-------|-------|
| 北緯43度 | 札幌 | 日本 | -4.1 | 22 |
| 北緯40度 | マドリード | スペイン | 6.1 | 24.2 |
| 北緯44度 | ベオグラード | セルビアモンテネグロ | 1.2 | 21.9 |
| 北緯41度 | ローマ | イタリア | 8.4 | 24 |
| 北緯43度 | ウラジオストック | ロシア | -12.6 | 19.6 |
| 北緯41度 | タシケント | ウズベキスタン | 1 | 25.7 |
| 北緯43度 | ウルムチ | 中華人民共和国 | -12.4 | 23 |
| 北緯41度 | シェンエン | 中華人民共和国 | -10.9 | 23.7 |
| 北緯45度 | モントリオール | カナダ | -10.2 | 19.6 |
| 北緯42度 | ボストン | アメリカ合衆国 | -1.4 | 22.4 |

資料) 平成16年版理科年表。

域的差異をみたい。データは、日最深積雪50cm以上の日数の月別平均値を使用した。50cm以上の降雪は、冬期間に一定の積雪量あるものと考えた。対象地域は、主として積雪日数が記録されている都市を選定した。それらは、札幌、稚内、留萌、旭川、網走、根室、帯広、函館、青森、秋田、盛岡、山形、仙台、新潟、上越、長野、富山、金沢、福井、敦賀、鳥取、松江の22都市で、北海道、日本海岸、本州内陸部といった南北の広範囲におよぶ。

まず、月別の積雪日数では、2月、3月、1月、12月の順が多い。3月と1月は、ほとんど差がない。3月は、雪解けのイメージが強いものの、降雪も意外に多い。次に、積雪日数（4ヶ月間）が多い地域は、旭川（75.2日）、留萌（60.1日）、札幌（57.8日）、青森（54.6日）、稚内（50.3日）、上越（43.5日）と続き、上位を北海道で占める。これらの地域は、1ヶ月以上の積雪を記録していることとなり、旭川の場合、2ヶ月以上にも達する。

他方、同じ北海道でも、根室（0.8日）や函館（5日）は、本州方面と比べ積雪日数が少ない。北海道は、道北や道央で積雪が多く、道南や道東でそれが少ない。

東北では、日本海岸と太平洋岸の差異はあまりないものの、内陸の山形（8.2日）は積雪日数がやや多く、盛

岡（1.4日）のそれは少ない。また、津軽海峡を挟み、函館と青森の積雪日数は大きく違い注目に値する。

中部では、上越で積雪日数が多く、新潟（2.8日）のそれは少ない。記録を確認できる最も南緯は、島根県の松江（0.4日）となる。1998年冬季オリンピック開催地の長野（0.2日）は、意外にも積雪日数が極端に少ない。長野の場合、市内ではスケート競技に限られ、他の競技は周辺山間地域で行った。札幌の場合、男子ダンヒルコースのみが市外で、他の競技はすべて市内で実施している。

以上から、積雪日数は北海道の日本海岸や内陸部で多いものの、地形や海流などの諸条件により、高緯度地域が常に積雪が多いとは言えない。

3. 北海道の植生の特徴

北半球を広く覆っている植生は、寒帯気候に属するツンドラ、冷帯気候に属する針葉樹林（タイガ）、落葉広葉樹林・混合林、および高山植生が大半を占める。また、ロシア含む寒帯地域では、永久凍土と呼ばれる土壤が広がっている。この永久凍土は、北海道大雪山系の山頂部においても確認されている。

一方、道南部の渡島半島では、温帯地域の樹木をいく

第3表 日最深積雪50cm以上の日数の月別年平均値

| 都 市 名 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---------|-----|------|------|------|------|
| 札幌 | 1.5 | 13.8 | 24.4 | 18.1 | 57.8 |
| 稚内 | 2.1 | 10 | 20 | 18.2 | 50.3 |
| 留萌 | 3.5 | 14.5 | 22 | 20.1 | 60.1 |
| 旭川 | 5.7 | 20.7 | 26.7 | 22.1 | 75.2 |
| 網走 | 0 | 1.4 | 5.5 | 5.2 | 12.1 |
| 根室 | 0 | 0.1 | 0.3 | 0.4 | 0.8 |
| 帯広 | 0.2 | 4.1 | 5.2 | 2.8 | 12.3 |
| 函館 | 0 | 0.6 | 3.1 | 1.3 | 5 |
| 青森 | 2.8 | 14.6 | 22.3 | 14.9 | 54.6 |
| 秋田 | 0 | 0.8 | 2 | 0.5 | 3.3 |
| 盛岡 | 0.1 | 0.3 | 0.8 | 0.2 | 1.4 |
| 山形 | 0.4 | 2.3 | 4.3 | 1.2 | 8.2 |
| 仙台 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 新潟 | 0.1 | 0.6 | 1.8 | 0.3 | 2.8 |
| 金沢 | 0.3 | 3.4 | 4.3 | 0.5 | 8.5 |
| 富山 | 0.7 | 5.3 | 6.5 | 1.7 | 14.2 |
| 長野 | 0 | 0 | 0.2 | 0 | 0.2 |
| 上越（新潟県） | 2 | 11.1 | 19 | 11.4 | 43.5 |
| 福井 | 0.5 | 4.5 | 5.3 | 1.3 | 11.6 |
| 敦賀（福井県） | 0.5 | 3.6 | 4.3 | 0.7 | 9.1 |
| 鳥取 | 0.3 | 1 | 1.6 | 0.1 | 3 |
| 松江（島根県） | 0.1 | 0 | 0.3 | 0 | 0.4 |

資料) 平成16年度版理科年表。

注) 単位は日。

つか確認でき、黒松内低地帯を境界とする。松前町では、本州を北限とする孟宗竹や椿がみられる。

他方、同じ道南部でも、恵山(恵山町)では標高618m程度のところで高山植物が分布する。また、黒松内低地帯からやや北部に位置するニセコアンヌプリ(標高1308m)の山頂部では、1000m付近で森林限界となっている。3スキー場(ニセコひらふ・ニセコ東山・ニセコアンヌプリ)が位置する最上部のリフト付近は、樹木がほとんどない雪原にあるため、しばしば風雪で停止する。

道北部の離島利尻山(利尻町・利尻富士町)では、標高1721mの山麓、山中、山頂で異なる植生が垂直分布する。

北海道内の植生は、海流や気団移動などの条件により成立するものであるが、多様性があり前節の積雪日数との関連も深い。結局、冷帯・寒帯と温帯の植生が混在する境界地域となっている。

IV. 形式的なシステムの地理的比較

1. 国家システム

国家システムの変容は、地域間交流の地理的範囲も変化させやすい。資本主義国家と社会主義国家の場合、双方における地域間交流は、少ない傾向にあった。とりわけ、米ソ冷戦期においては、地理的位置の近接がありながらも、正式な国交をもたないことが少なくなかった。

日本の地理的位置を基準として、国家システムを整理すると以下ようになる。資本主義国家は、アメリカ合衆国、カナダ、大韓民国(韓国)、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、アイスランド、デンマーク、旧西ドイツ、イギリス、アイルランド、オランダ、ベルギー、フランス、スイス、オーストリア、ルクセンブルク、イタリア、スペイン、ポルトガル、ギリシャおよび小国となる。社会主義国家では、旧ソ連、ポーランド、旧東ドイツ、旧チェコスロバキア、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、旧ユーゴスラビア、モンゴル、中華人民共和国(中国)、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)となる。周知のように1990年以降、旧ソ連崩壊後は、旧東ヨーロッパ諸国など分裂独立を果たし、多くの国で市場経済を導入した。日本は、中華人民共和国、ロシア、モンゴルといった国との貿易関係などを深めつつある。

以上から、国家システムの変容は、地理的交流の地理的範囲を変える可能性が、今後も続くと考えられる。

2. 北極圏

北極圏は、「北方圏」と異なる人為的な地理的範囲であり、北緯66度以北を指す。同様に、南極圏は、南緯66

度以南を指し、それら地理的範囲を極地と呼ぶ。他方、北極圏と「北方圏」は、混同しやすい用語であるが、緯度の条件の有無が明確なため、地理的範囲は異なる。また、北方は、基準からみての単なる北の方面に位置する地域に過ぎない。例えば、北方仏教(大乘仏教)は、インドからみて、北に位置する中国、朝鮮、日本などに広まったものを指す。また、我が国の北方領土は、首都東京からみて、北に位置することが基準としてある。

北極圏の地理的範囲は、ロシア、アメリカ合衆国(アラスカ)、カナダ、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン、デンマーク(グリーンランド)の一部地域で、国土全体をその範囲に含む国家は存在しない。陸地のほとんどは、氷雪気候やツンドラ気候といった人間生活を営む上で厳しい自然環境下にある。他方、ノルウェー北部の海岸線は、暖流の北上があり、温帯気候に属するところもある。例えば、ノルウェー北部のナルビクは、冬期間、この暖流の影響により凍結しない不凍港して有名である。

北極圏は、厳しい自然環境のイメージが先行するが、均一な環境として説明することは難しい。

3. 冬季オリンピックの開催地

冬季オリンピックの開催地は、積雪条件が最優先されるものの、施設整備できる経済的条件や地域の競技人口の多少も影響する。

2002年までの実施19回のうち、すべて北半球で開催している。南半球には、オーストラリアやニュージーランドで積雪はあるものの、季節が反対になるため、1月～2月には開催できない。

これまでの開催地は、ヨーロッパと北米で2分し、そのほとんどを資本主義国家で行った。一方、社会主義国家では、唯一、サラエボ(旧ユーゴスラビア・現ボスニアヘルツェゴビナ)の開催のみである。また、アジアの場合、日本の開催のみである。次の候補国として、ワールドカップスキー大会を実施した大韓民国(韓国)やスキー場立地が増加している中華人民共和国(中国)での開催も可能性がある。

開催国別では、フランス、イタリア、スイス、オーストリア、ドイツ、旧ユーゴスラビア、ノルウェー、アメリカ合衆国、カナダ、日本の10カ国で、複数の開催地をもつのは4カ国におよぶ。圧倒的にヨーロッパ諸国が多いものの、スウェーデン、フィンランドといった北欧の積雪地の開催は意外にもない。他方、サンモリッツ(スイス)、レークプラシッド(アメリカ合衆国)、インスブルク(オーストリア)は、同都市で2回の開催を行っている。

開催地の緯度をみると、アメリカ合衆国のスコーパーレー、

ソルトレイクシティ、日本の札幌、長野、旧ユーゴスラビアのサラエボが南側に位置する。札幌の場合、開催決定にあたり、十分な積雪が確保できるのか当時の選考委員を心配させたと言う。そのため、冬季オリンピック開催をきっかけに、札幌は積雪地域であることを国内外に宣伝できた。

以上から、冬季オリンピックの開催地をみる限り、欧米の資本主義国家を中心に展開してきた。アジア地域は、日本のわずかに2回に留まり、積雪地域のイメージにはやや乏しい。

V. おわりに

本稿では、「北方圏」の地理的範囲について、北海道の地理的事象との比較を中心に若干の考察をし、地域イメージについても、アンケート調査を行った。以下にその要約をしておきたい。

- ① アンケート調査結果では、北海道と東北に加え、ロシア、モンゴル、北欧5カ国、イギリス、アラスカ、カナダといった国や地域を北方圏の地理的範囲のイメージとして選択した。
- ② 札幌は、類似緯度地域との平均気温（夏と冬）の比較ではほぼ対象地の平均値を示した。また、国内の積雪日数の比較では、北海道内においても、その差

異が大きく、高緯度地域の積雪を裏付けることができない。

- ③ 国家システムの変容は、地域間交流に変化をもたらした。地理的範囲にも影響を与える可能性が大きい。冬季オリンピック開催地をみると、日本の札幌と長野は唯一のアジア開催地となり、ヨーロッパや北米と比べると、積雪地域のイメージが形成されにくい。

これらの知見から、「北方圏」の地理的範囲は、概ねアンケート調査結果に準じる地域と言えそうだ。ただし、イギリスは、気候区分において温帯地域に属し除く。他方、中華人民共和国の北東部やアメリカ合衆国北部は平均気温の比較をみる限り含めてもよからう。

よって、「北方圏」の地理的条件は、一定の積雪が前提としてあり、平野部におけるそれらの多少が境界となりそうだ。加えて、一定の地域間交流があることも条件としてあろう。

今回は、国家や行政単位によるあくまで限られたデータをもとに地理的範囲の可能性を示すのに留まった。よって、詳細な地理的範囲については再考を残す。

謝 辞

第Ⅱ章のアンケート調査は、旭川大学経済学部「地理Ⅰ」履修者の協力を得た。

第4表 冬季オリンピックの開催地

| 回 | 年 | 国 | 名 | 都 | 市 | 名 |
|------|-------|----------|---|----------------|---|---|
| 第1回 | 1924年 | フランス | | シャモニー | | |
| 第2回 | 1928年 | スイス | | サンモリッツ | | |
| 第3回 | 1932年 | アメリカ合衆国 | | レークプラシッド | | |
| 第4回 | 1936年 | ドイツ | | ガルミッシュバルテンキルヘン | | |
| 第5回 | 1948年 | スイス | | サンモリッツ | | |
| 第6回 | 1952年 | ノルウェー | | オスロ | | |
| 第7回 | 1956年 | イタリア | | コルティナダンベッツォ | | |
| 第8回 | 1960年 | アメリカ合衆国 | | スコーバレー | | |
| 第9回 | 1964年 | オーストリア | | インスブルク | | |
| 第10回 | 1968年 | フランス | | グルノーブル | | |
| 第11回 | 1972年 | 日本 | | 札幌 | | |
| 第12回 | 1976年 | オーストリア | | インスブルク | | |
| 第13回 | 1980年 | アメリカ合衆国 | | レークプラシッド | | |
| 第14回 | 1984年 | 旧ユーゴスラビア | | サラエボ | | |
| 第15回 | 1988年 | カナダ | | カルガリー | | |
| 第16回 | 1992年 | フランス | | アルペールヴィル | | |
| 第17回 | 1994年 | ノルウェー | | リレハンメル | | |
| 第18回 | 1998年 | 日本 | | 長野 | | |
| 第19回 | 2002年 | アメリカ合衆国 | | ソルトレイクシティ | | |

資料) 日本オリンピック協会資料。

注) 旧ユーゴスラビアは、現在ボスニアヘルツェゴビナ。

参 考 文 献

- 朝倉隆太郎 (1992) : 「東海」の地域的範囲について, 豊田短期大学研究紀要 2, pp. 81-89
- 菊地俊夫ほか (1995) : 『人間環境の地理学』, 開成出版
- 高谷好一 (1997) : 世界単位の考え方, 地域研究論集 1, pp. 34-49
- 田林明ほか (2001) : 『自然環境と文化』, 大明堂
- 二宮書店編集部 (2004) : 『基本地図帳』, 二宮書店
- 堀内良博編 (2000) : 『地域形成の論理』, 京都大学学術出版会
- 村上祐司 (2003) : 『地域研究』, 朝倉書店
- 文部科学省国立天文台編 (2003) : 『理科年表平成16年版』, 丸善株式会社
- 米地文夫ほか (1997) : 地名「三陸リアス海岸」に関する地理学的, 社会的問題, 岩手大学教育学部研究年報 57-1, pp. 125-141
- 吉田昌夫編 (2002) : 『地域研究入門』, 古今書院

Consideration of the “Northern Region” geographical range

Tatsuo Kikuchi Northern Region Research Center for Human Service Studies

Abstract

About the geographical range in the northern region, whether it is a hand made the geographical phenomenon which occurs in the questionnaire result of a local image, and Hokkaido, and also this research tends to carry out some consideration through a local comparison.

Consequently, in addition to Russia, Mongolian, Sweden, Norway, Finland, Denmark, Iceland, and Canada, Alaska, the northern United States of America, the People's Republic of China northeast part, Hokkaido, and the Tohoku were able to be considered as a geographical range.

Keyword : northern region, the geographical range, geographical comparison, Hokkaido